

平成30年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	31・1	学校名	静岡県立清水南高等学校・同中部	記載者	石川 芳恵
------	------	-----	-----------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業がわかる」と答える生徒の割合： <u>80%</u> （中・高共通）	A	A	中・高連携した授業研修の成果ではないか。授業はわかるのに、家庭学習に取り組むことができないのはなぜか。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合： <u>80%</u> （中・高共通）	B	B	主体的に学ぶ姿勢作りは難しい。自主学習を促す働きかけを学校は行っているのか。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計 <u>12回</u> 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 <u>10回</u>	A	A	美術予備校講師の講習は効果が高いので実施回数が増加してありがたい。今年は新企画もあり、工夫が感じられた。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合： <u>80%</u>	A	A	広報については、どうなっているのか。ポスター等をあまり見かけない。芸術科のものは、幅広く広報したほうが良い。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計 <u>7回</u>	B	A	時間確保のために授業への影響は大きいですが、教育効果も高いので上手にバランスをとって欲しい。
		中学：学力到達度調査（中3の評価A以上を <u>27%以上</u> ） 高校：国公立大学実合格率（普通科 <u>35%以上</u> ）、芸術系大学実合格率（芸術科 <u>70%以上</u> ）	B	A	成果目標の吟味は必要だが、数値目標が達成できているので評価はAでよい。芸術系大学への進学率はすばらしい。
ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進する。	年間の交通事故件数：中中部・高校ともに <u>前年度比減</u>	B	A	中・高とも減少しているが、具体的にどのような事故が発生しているのか。今後も事故0に向けて指導を継続して欲しい。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合： <u>70%</u> （中・高共通）	B	B	アンケート調査をみると、中中部と比較して高校になると割合が減少することが気になるが、原因は何だと考えるか。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合： <u>70%</u> （中・高共通）	C	B	アンケート調査の結果だが、数値化は難しい。3人に1人が自分に自信が持てていない。教員の声掛けで生徒は自信を持つので、ボイスシャワーを継続して欲しい。

様式第5号

		生徒向け「相談室だより」発行：年間計 <u>10回</u>	B	A	毎回異なる教員が執筆することで多様な視点から作成できたのではないか。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合： <u>80%</u> (中・高共通)	C	B	アンケート調査の結果だが、数値化は難しいと考える。高校の数値が下がっている原因を検討して改善して欲しい。
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実を図る。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合： <u>80%以上</u> (中高)	B	A	保護者アンケートでも、部活動や行事に対する評価は高くなっている。
		海外研修(中3、高2)で「充実している」と答える生徒の割合： <u>90%</u> (中・高共通)	A	A	中等部の満足度は特に高く、自信に繋がっている。中・高の海外研修は、学校の特色となっている。
		地域に目を向けた教育活動の実施：年間5回	B	A	管弦楽部の地域での演奏会だけではなく、福祉委員会の活動のように、多様な生徒を巻き込んだ活動を充実させて欲しい。
		「学校が楽しい」と答える生徒の割合： <u>80%</u> (中・高共通)	B	B	アンケート調査の結果によるものだが、数値にとらわれず、学校で生徒の自己肯定感を育成して欲しい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間 <u>1,600人</u> ホームページアクセス：年間 <u>500,000件</u>	B	B	HPアクセス数の73万件は立派である。より一層見やすいHP作りを心がけて欲しい。土曜オープンスクールは何回開催しているのか。成果目標の吟味も必要ではないか。
		PTA 総会出席率： <u>50%</u> 学年保護者会の出席率：出席率 <u>50%以上</u> (中・高共通)	C	B	PTA 総会の出席率向上のために工夫をしたようだが、目標自体が高すぎるのではないか。
		実践的防災訓練実施：年間 <u>3回</u> 地域防災訓練参加率：中等部 <u>75%</u> 、高校 <u>45%</u>	B	B	地域の防災訓練にも参加者が多いようだが、本校の立地状況を考えれば、防災訓練は重要であり、もっと力を入れても良いのではないか。
		講話や研修等の取組： <u>月1回以上</u> 県報告レベルの不祥事発生： <u>0件</u>	B	B	通算すると平均で月1回以上の取組が行われているとのことだが、常に意識を高くして、継続的に実施して行って欲しい。
カ	事務業務の見直しと改善を図る。	予算執行に関する校内研修会の開催： <u>年1回</u>	A	A	今後、研修の中身を充実させて行って欲しい。
		定時退勤日の徹底	C	B	定時退勤日を曜日で設定するのは無理である。成果目標を検討して欲しい。

様式第5号

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった